大磯の左義長

1月9日（木）～11日（土）

ミチキリ

ナナトコマイリ

オカリコ

※浜ノ町のみ 1月9日（木）～12日（日）

1月12日（日）

セエトバレエ

18時30分頃

点火

ヤンナゴッコ

「大磯の左義長」は、地元ではセエトバレエ（サイトバレエ）、ドンドヤキ、ダンゴヤキなどとも呼ばれる「道祖神の火祭り」ですが、皆さんはその由来を知っていますか？

左義長の由来

左義長の名は、中国の故事に由来する名前です。日本でも平安時代の小正月（1月15日）の宮中行事に、青竹を立て毬杖（ぎっちょう）という杖を3本結んで焼いたという記録があります。3本の毬杖を結んで立てたのでサギチョウと呼んだそうです。

大磯では明治時代に、初代内閣総理大臣伊藤博文の側近によって使われ始めたとの伝承があり、左義長の名が大磯における古くからの呼び名であったのかどうかは不明です。

左義長の始まり

大磯の左義長は記録された史料がないため、いつ頃から始まったのかは分かりませんが、左義長だけでなく、今私たちが目にすることのできる祭礼は、その多くが江戸時代に現在の形になったとされています。

全国各地に似た行事がありますが、多くは道祖神の祭りと正月の火祭りとが別々に行われており、大磯の「道祖神の火祭り」のような形態は、関東甲信地方など限られた地域の特徴です。

セエトバレエの意味

大磯では道祖神をセエノカミサンと呼んでいます。セエノカミサンには、正月飾りや書初め、古い御札などが集められ、それを海岸で燃やします。塔のように高く積み重ねたものをセエト（サイト）と呼びます。セエトを燃やして厄祓（やくばらい）をして、一年の無病息災を祈ったのでセエトバレエと呼ぶようになったようです。

なぜ団子を焼くのか

団子はもともと神への供え物としての由来があり、特別な機会に作ります。コナラやヤナギなどの木の枝に団子をたくさん飾り、豊作、豊漁、商売繁盛を祈りました。セエトで焼いた団子を食べると風邪をひかない、虫歯にならないといわれます。ぜひ皆さんも左義長に参加して健康な一年をお過ごしください。

正月飾り等の持込みについて

本年度の左義長では、特に環境に配慮して行事を進めていきたいと考えています。プラスチック・金属類は、はずしてからセエトにくべるよう、ご理解、ご協力をお願いします。

問 生涯学習課 ☎内線323
産業観光課 ☎内線334